

2024年秋年末闘争・組織拡大

CTGの建交労道本部闘争速報

2024年12月4日/第11号

〒060-0909 札幌市東区北9条
東1丁目北海道労働センター2F
TEL011-711-7377
FAX011-711-7388
e-mail/ctg.hokkaido@gmail.com

北海道鉄道本部が第25回定期大会 労働者魂を失わずたたかい続ける

北海道鉄道本部は11月30日に第25回定期大会を開催し各地域から20名の仲間たちが集まりました。来賓として出席した建交労道本部の森国委員長から激励の挨拶を受け、全国鉄道本部の森委員長からのメッセージが紹介されました。最上書記長が1年間の活動報告と運動方針、竹田委員長が決算報告と予算案を提案して討論がおこなわれました。

9月に70歳で勇退した奈良さんから、全動労・建交労鉄道本部で退職を迎えたことへの誇りと、小さな組合が真正面から正しいことを求めていく姿に管理者から怖がられていたことや職場で信頼を勝ち取ってきた頑張りが語られ、参加者の胸を打ちました。小樽・岩見沢・室蘭の代議員から、それぞれの地域で運動の牽引的な役割を果たし、全動労結成時から国鉄闘争そして北の鉄道を守るたたかいの中で、地域の仲間の皆さんからむけられた熱い連帯に、労働者魂を失うことなく身体が続く限り応え続けるという発言がありました。JR北海道や国土交通省・関係自治体と交渉や要請を重ね、道民にとって大切な鉄道を存続するために奮闘し、JR北海道の処遇を改善して早期退職に歯止めをかけ、エルダー社員には労働力の提供に応じた当たり前の待遇をめざす執行部の姿に励ましの言葉もありました。最後に竹田委員長が発言に対しての思いと期待に応えられるような運動を進める決意を述べ、団結がんばろうで定期大会を結びました。役員体制は前年度と同じく竹田委員長・最上書記長体制で活動を展開していきます。続いておこなわれた交流会では、美味しい肴に、店長おすすめの地酒2升を飲み干すほどの元気モリモリで、2025年春闘での奮闘にむけて鋭気を養いました。

北海道鉄道本部が四つの課題でJR北海道と交渉

11月20日のJR北海道との団体交渉では、四つの課題（年末一時金については既報）で北海道鉄道本部との意見交換がおこなわれました。

KPI（重要業績評価指標）達成状況の報告では、上半期は北海道ボールパークへの輸送需要や新千歳空港利用者の取り込み、インバウンドなどの観光需要が伸びて、千歳線を中心に中長距離輸送も鉄道利用者数が増加している状況で、JR他社の年末一時金回答状況からみても前年を上回る回答に期待が持てる内容となっていました。

初任給改訂の問題では、春闘において初任給の見直しについて別途提示すると回答されており、この日の交渉で実施日を来年1月1日とした各種取扱いの説明があり、高卒5年目の賃金が大卒初任給を上回り、4年間現場で汗を流し技術を習得した労苦に応える賃金となっています。今後は60歳定年の年齢引き上げやエルダー社員が奪われた諸手当の復活など処遇改善を求めていきます。

冬期対策について、これまでに起きた大雪による大規模輸送障害について運輸局に報告した改善策を着実に実行し、その検証をふまえた取り組みを継続し推進していくこと、過去に発生した重大事象を契機に講じてきた各種対策については引き続き取り組んでいくことを基本に、情報提供の充実など冬期安全安定輸送の確立を目指すものでした。大型除排雪車両が導入されていますが、これまでの交渉の中で北海道に降る雪質の変化にともなう作業の在り方などを、湿った雪が降るJR東日本の新潟支社や秋田支社から教訓と経験を学ぶことを提案していますが一向におこなわれていません。降雪対策を検討するのに用いる費用と時間を短縮する取り組みこそが省力化に結びつくのではないかと指摘しました。また、札幌運転所など直接雇用の冬期臨時社員と外注先社員が共同で作業に当たっている職場での、賃金格差や残業代の不払いなどに目を光らせることを求めて交渉を終えました。